2022 年度

公益財団法人東京子ども図書館

年次報告

〒 165-0023　東京都中野区江原町 1-19-10　　2023 年 7 月発行
Tel. 03-3565-7711　**Fax.** 03-3565-7712　**URL** https://www.tcl.or.jp

50 周年を前にして

理事長　張替恵子

ホールでの納涼お話会

この 3 年間待ちわびたコロナ終息は、感染症法上の位置づけを「5 類」に移行するという、なんとも歯切れの悪い形で節目を迎えました。世界中が感染の脅威に揺さぶられる緊急事態は下火になったものの、これからは、いつ何時、同様の非日常が繰り返されるかもしれないということを心しつつ、通常の活動を立て直していくことになるのでしょう。

ところで、感染拡大が始まって間もなく、アメリカの公共図書館の周りに人々が集まって、スマホを掲げている映像がニュースで流れたのをご覧になったでしょうか。コロナ禍の閉館期間中も、全米の公共図書館は、地域住民の情報アクセスを保障するために、無料の Wi-Fi 電波を提供したのです。これは、コロナ禍の期間に行った新しいサービスのほんの一例で、図書館が「驚くべき創造性と叡智を発揮し」、「誰もが不安に襲われているときに、私たちが日々働き、学び、つながるために必要なツールを提供し続けてくれた」と称賛されたそうです。このように広域かつ迅速な対応が実現できたのは、アメリカ図書館界が半世紀以上にわたって不断の努力を重ねた成果だということを、最近読んだ『闘う図書館――アメリカのライブラリアンシップ』（豊田恭子著　筑摩書房　2022 年）で知ることができました。アメリカ図書館協会をはじめとした関連団体と研究者らが結束し、政府に働きかけ、連邦予算を引き出し、移民受け入れや医療保険の窓口として、デジタル化の最前線として地域に欠かすことのできない拠点と認識されるよう格闘してきた様は、日本とはかけ離れすぎて比べようもありませんが、それでも、図書館の新しい可能性を信じさせてくれる力強い一冊でした。

「松岡享子さんに感謝する会」を無事に終え、前を見れば、財団設立 50 周年が近づいてきています。目下のところ、松岡さんが全国に広めた「お話」にまつわる映像や、同じく 50 周年を迎える伊藤忠記念財団との協働事業などの企画が進行中ですが、大がかりな催しは考えていません。今、わたしたちに必要なのは、休養と静かに思いめぐらす時間だと感じられるからです。それから、全国あちこちに出かけていき、応援してくださるみなさまと、これからの子どもと読書について、じっくりと語り合いたいと願っています。

松岡享子さんに感謝する会

2022年1月に他界した松岡享子名誉理事長を追悼する会を、88歳のお誕生日にあたる3月12日から18日まで、当館ホールを会場に行いました。

コロナの感染防止のため、1日3回または4回、計27回の少人数制のプログラムとしました。冒頭、10分ほどの映像を上映（森英男氏制作）、松岡さんのエッセイの朗読、参加者などからの感謝のことばの後に、ピアノ演奏の中、献花をしていただきました。

16時以降は、自由にご来場可能な時間も設け、児童室に通う子どもたちや、お仕事帰りの方がおこしくださいました。ご来場者は、7日間で699名に上りました。この会の詳細は、機関誌「こどもとしょかん」177号に特集しました。

オンライン特別プログラム映像より

当館においでになれない方のために、**オンラインの特別プログラム**も配信しました。当館のYouTubeチャンネルでの限定公開として、事前にお申込みくださった方にご覧いただきました。

内容は、張替理事長による主催者挨拶にはじまり、松岡享子さんの歩み、3月12日の来場の会の様子、みなさまから寄せられた感謝のことばや松岡さんの書かれたエッセイの朗読です。また、松岡さんが児童室の「おはなしのじかん」に語った「三びきのクマの話」の音声もお聞きいただきました。映像編集は森英男氏にご協力いただきました。あわせて、松岡恵実さんによる、長野県茅野市での山の暮らしを綴った映像「はるよこい」も配信しました。（上映時間：70分　配信期間：3/23～3/31　申込者：751名　再生回数：本編2526回・「はるよこい」1047回）

見逃した方や再視聴のご希望者のために、2023年5月にアンコール配信も行いました。

松岡享子 著　A5判
544p　本体3,000円＋税
ISBN 978-4-88569-018-1

ご参加のみなさまには、この会にあわせて刊行した**『ランプシェード――「こどもとしょかん」連載エッセイ 1979～2021』**をさし上げました。本書は、松岡さんが、当館機関誌「こどもとしょかん」1号～170号に、43年にわたり連載したエッセイ「ランプシェード」全162編を収録したものです。内容は、折々に読んだ本の感想や、図書館や文庫で出会った子どものこと、海外への旅、社会的な事件や身辺雑記など多岐にわたり、子どもと本を繋ぐために精力的に働いた仕事ぶりや、ユーモアあふれる人柄が浮かび上ります。

「松岡享子さんに感謝する会」、『ランプシェード』については、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、東京新聞等で取り上げられ、多くの取材や執筆依頼を受けました。「MOE」（白泉社）、「この本読んで！」（出版文化産業振興財団 JPIC）等の雑誌でも追悼特集が組まれました。

会にご参加くださったみなさまから、1,500万円を超えるお志をお寄せいただきました。あたたかいご支援に心よりお礼申し上げます。これを受け、新たに「本よんでうれしいさん基金」を設けることにいたしました。詳細は12頁をご覧ください。

一年のあゆみ

Lはライブ配信の催し。録画配信を行った場合は 録画を付記。

4月
- 第 38 期お話の講習会開講（8 日）
- おとなのためのお話会（14 日、他 10 回）
- 第 36 期お話の講習会修了式（15 日）
- 機関誌「こどもとしょかん」刊行（20 日、7/20、10/20、1/20）

5月
- 茨城農芸学院でお話（31 日、他 3 回）

6月
- 児童図書館員のための初級研修プログラム（4 日、他 7 回）L
- 中野区立江原小学校でお話（15 日、他 5 回）
- 中野区立江古田小学校でお話（24 日、29 日）
- ブックトークカフェ・なないろ（25 日、10/29、1/28）L
- 愛蔵版をとことん知りつくそう！の会（28 日、11/22）L

7月
- 杉並区立桃井第二小学校でブックトーク（9 日）
- 短期お話の講習会・中級コース（14 日、9/8）

8月
- 児童室納涼お話会（3 日、24 日、31 日）
- ブックトーク祭り（5 日、6 日）L
- 『知識の海へ』刊行（10 日）
- ブックトーク・ワークショップ 2022（19 日、20 日）L

9月
- 短期お話の講習会・初級コース（16 日、11/18）

10月
- 刊行記念『知識の海へ』1 冊丸ごとブックトーク（1 日）L 録画
- 学習院初等科でお話（14 日）

11月
- バザーコーナー開設（1 日～ 2/28）
- 中野区立令和小学校でお話（8 日、他 3 回）
- 白金保育園でお話（9 日、他 3 回）
- 『知識の海へ』刊行記念・賛助会員限定イベント「僕が出会った本と本屋のハナシ」（26 日）L 録画

12月
- 児童室クリスマスお話会（7 日、14 日、21 日、24 日）
- 池田正孝先生に感謝する会（10 日）L 録画
- 『英国児童文学の舞台を訪ねて』刊行（26 日）

1月
- 練馬区立豊玉東小学校でお話（24 日）

2月
- 第 37 期お話の講習会 修了お話の会（11 日）
- 『知識の海へ』刊行記念・賛助会員限定イベント「教えて！ 庭・森・海のこと　聴かせて！ 張替さんのこと」（18 日）L 録画

3月
- 『ランプシェード』刊行（12 日）
- 松岡享子さんに感謝する会（12 日～ 18 日）
- 松岡享子さんに感謝する会・オンライン特別プログラム配信（23 日～ 31 日）録画
- 『おはなしのろうそく 33』刊行（28 日）

I 概況

コロナ下 3 年目。児童室では、開室日や時間に制限を設けつつ、予約制わらべうたの会や、ホールでのお話会など、通常サービスに戻していくための工夫をいろいろと試みました。かつら文庫では、お話会に代えて、個別の読み聞かせを心がけました。また、資料室では、ボランティアの方々がデータベースの確認作業を進めてくださいました。

講演、講座、研修プログラムでは、オンラインのライブ配信が定着しましたが、『知識の海へ』刊行記念の催しでは録画配信も併用し、参加者がさらに広がりました。その一方、お話関連では、来場型の大人向けお話会や講習会がかなり復活し、同じ場に集う喜びを改めて噛みしめました。各地への講師派遣も復活の兆しを見せ、コロナ前に迫る勢いです。

講師派遣
（鶴見おはなしサークルでんでんむし）

出版事業では、8 月の『知識の海へ』刊行により、17 年の歳月をかけた「児童図書館基本蔵書目録」全 3 巻がついに完結したほか、『英国児童文学の舞台を訪ねて』、『ランプシェード』、『おはなしのろうそく 33』など、大きな実りがありました。おかげさまで売れ行きも好調です。

この 3 年間で最も進化した事業は SNS による発信です。8 月には『知識の海へ』を紹介する YouTube 動画を公開、Facebook や Instagram でも、『海』収載本や松岡さんの著作を次々紹介したほか、日々の活動をまめに投稿、フォロワー数は着実に増えています。

ご逝去から間があきましたが、当館に多大な貢献をされた元評議員の池田正孝氏と松岡享子名誉理事長を追悼する会を催し、いずれにも多くの方々にご参加いただきました。

「池田正孝先生に感謝する会」は 12 月 10 日の Zoom ライブ配信と録画配信にて行いました。

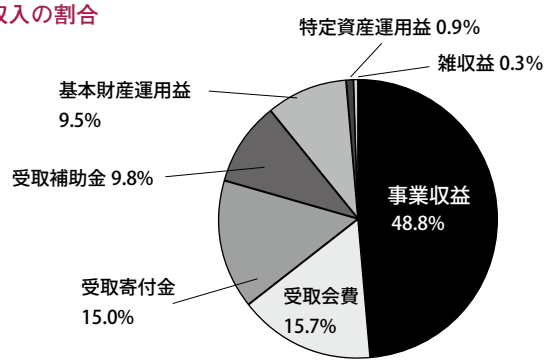
「松岡享子さんに感謝する会」は 3 月 12 日から 18 日までの 1 週間、当館にて来場型のプログラムを行ったほか、オンライン特別プログラムを録画配信しました。

この会に合わせて、多くの励ましのお言葉やご寄付をいただきました。お力添えに心より感謝いたします。みなさまからのお志を基に新たな基金を設けることになりました。詳細は 12 ページをご覧ください。

来年 1 月に設立 50 周年を迎える当館が、子どもと本の幸せな出会いのために、これからも役立つ仕事を続けていけるように、視野を広げ、知恵を絞って、日々の仕事に向かいたいと思います。

Ⅲ 財務状況について

●収入の割合



■財務諸表

貸借対照表　2023 年 3 月 31 日現在（単位：円）

科　　目	金額
Ⅰ 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	61,423,479
未収金	5,997,947
前払金	1,200,000
販売用図書	24,608,476
販売用機関誌	2,531,649
流動資産合計	**95,761,551**
2. 固定資産	
（1）基本財産	
土地	361,224,400
建物	182,672,847
著作権	39,253,978
定期預金	40,000,000
基本財産合計	**623,151,225**
（2）特定資産	
プロジェクト積立資産	0
子どもたちに本を贈ろう基金	3,490,952
本よんでうれしいさん基金	15,056,983
公益事業運営積立資産	82,804,368
特定資産合計	**101,352,303**
（3）その他固定資産	
建物附属設備	4,713,720
構築物	100,352
什器備品	793,188
図書	53,723,603
電話加入権	0
その他固定資産合計	**59,330,863**
固定資産合計	**783,834,391**
資産合計	**879,595,942**
Ⅱ 負債の部	
1. 流動負債	
未払金	2,550,220
前受金	4,767,672
前受会費	11,352,707
預り金	863,116
流動負債合計	**19,533,715**
負債合計	**19,533,715**
Ⅲ 正味財産の部	
1. 指定正味財産	
寄付金	18,547,935
指定正味財産合計	**18,547,935**
2. 一般正味財産	**841,514,292**
正味財産合計	**860,062,227**
負債及び正味財産合計	**879,595,942**

■都道府県別　賛助会員数・機関誌定期読者数

（2023 年 3 月 31 日現在）

●賛助会員数および機関誌定期読者数（当館から直接発送）

都道府県名	賛助	読者	都道府県名	賛助	読者
北海道	20	45	滋賀県	9	19
青森県	9	14	京都府	17	41
岩手県	14	25	大阪府	73	147
宮城県	20	33	兵庫県	58	147
秋田県	3	2	奈良県	65	91
山形県	13	23	和歌山県	10	20
福島県	9	17	鳥取県	8	18
茨城県	36	53	島根県	30	64
栃木県	32	46	岡山県	12	29
群馬県	14	12	広島県	36	56
埼玉県	125	187	山口県	12	25
千葉県	136	199	徳島県	0	3
東京都	479	685	香川県	4	13
神奈川県	202	281	愛媛県	3	11
山梨県	8	16	高知県	12	20
長野県	44	73	福岡県	36	61
新潟県	31	47	佐賀県	0	0
富山県	9	16	長崎県	9	15
石川県	15	31	熊本県	9	20
福井県	25	27	大分県	11	17
岐阜県	8	25	宮崎県	6	9
静岡県	75	115	鹿児島県	13	22
愛知県	48	91	沖縄県	7	9
三重県	10	19	海外	5	13
			合計	1,830	2,952

●書店経由の機関誌定期購読者数　690（690）

正味財産増減計算書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日（単位：円）

科　　目	当年度
Ⅰ一般正味財産増減の部	
1．経常増減の部	
（1）経常収益	
①基本財産運用益	10,184,105
基本財産受取利息	31,334
基本財産受取印税	10,152,771
②特定資産運用益	925,231
特定資産受取配当金	925,231
③受取会費	16,877,972
賛助会員受取会費	16,877,972
④事業収益	52,453,383
研修事業収益	9,887,043
施設事業収益	138,500
著作権使用収益	675,649
出版事業収益	40,129,560
取材・資料協力事業収益	1,622,631
⑤受取補助金等	10,538,562
受取民間助成金	9,725,562
受取民間助金等振替額	813,000
⑥受取寄付金	16,133,362
受取寄付金	12,866,434
受取寄付金振替額	2,760,637
図書受贈額	506,291
⑦雑収益	292,636
受取利息	562
雑収益	292,074
経常収益計	**107,405,251**
（2）経常費用	
①事業費	**98,031,187**
役員報酬	5,639,200
給料手当	44,178,372
退職給付費用	1,115,338
法定福利費	6,893,359
福利厚生費	74,613
研修費	0
旅費交通費	745,884
通信運搬費	4,810,025
減価償却費	6,669,635
図書費	158,444
寄贈図書	2,760,637
消耗品費	328,982
修繕費	557,110
印刷製本費	14,110,673
光熱水量費	1,504,183
保守費	906,943
賃借料	745,198
保険料	98,060
諸謝金	135,622
租税公課	2,458,400
支払手数料	878,304
諸会費	42,100
広告宣伝費	214,390
支払助成金	100,000
原稿料・印税	869,318
仕入費	1,114,855
委託費	854,147
雑費	67,395

科　　目	当年度
②管理費	**8,909,264**
役員報酬	503,240
給料手当	3,070,268
退職給付費用	82,662
法定福利費	510,893
福利厚生費	5,530
研修費	108,510
渉外費	29,670
通信運搬費	54,736
減価償却費	846,563
消耗品費	358,060
修繕費	41,290
印刷製本費	79,668
光熱水料費	97,947
保守費	67,217
賃借料	247,010
保険料	0
諸謝金	2,261,600
租税公課	37,412
支払手数料	6,126
諸会費	83,150
委託費	316,091
雑費	101,621
経常費用計	**106,940,451**
評価損益等調整前当期経常増減額	464,800
特定資産評価損益等	19,402,362
評価損益等計	19,402,362
当期経常増減額	19,867,162
2．経常外増減の部	
（1）経常外収益	
新型コロナウイルス関連受取給付金等	0
経常外収益計	0
（2）経常外費用	
固定資産売却損	115,280
電話加入権評価損	214,363
経常外費用計	329,643
当期経常外増減額	△ 329,643
税引前当期一般正味財産増減額	19,537,519
法人税等	112,000
当期一般正味財産増減額	19,425,519
一般正味財産期首残高	822,088,773
一般正味財産期末残高	841,514,292
Ⅱ指定正味財産増減の部	
受取寄付金	16,130,986
受取寄付金	16,130,986
一般正味財産への振替額	△ 2,760,637
寄付金	△ 2,760,637
当期指定正味財産増減額	13,370,349
指定正味財産期首残高	5,177,586
指定正味財産期末残高	18,547,935
Ⅲ正味財産期末残高	**860,062,227**

研修事業収益が回復し、それに伴い出版事業も徐々に回復してきました。また、企業・団体への助成申請や寄付の呼びかけを積極的に行い、黒字の決算となりました。大和証券練馬支店、パルシステム、東京しごと財団より助成金を、富士フイルム等よりご寄付をいただきました。